

医心 伝心

本年のスギ花粉飛散は 「やや少ない」

富山県医師会理事 河合 晃充

さて、年が明けて平成30年となりました。スギ花粉の飛散開始が近づいてきています。富山県森林研究所は、12月中旬に県内11カ所で行ったスギ雄花の着花量調査の結果を踏まえて、今年のスギ花粉飛散量の予測を発表しています。それによると今年のスギ花粉飛散量は平野部で1cm²当たり約2400個程度と平均値の2974個の80%程度で、平成29年（4044個/cm²）と比べると60%程度の飛散量となります。スギ花粉の飛散量は雄花が着花し始める夏の天候に強く影響を受け、気温が高く降水量の少ない年ほど多く着花する傾向があります。最近では日照時間が最も関係が深いとされています。平成29年の7・8月の平均日照時間は162.9時間で、平年（178.0時間）より15時間程少なかったことから、着花に適さない気候となりました。このことから、平年よりもやや少ない着花量になったと考えられます。スギ花粉の飛散量は一年おきに豊凶を繰り返す傾向がありますが、ここ数年ではその傾向が当てはまらなくなってきました。

県医師会花粉症対策員会では4年前より、ウェザーニューズ社のポールンロボというリアルタイムにスギ花粉の飛散状況が把握することができる機器を県内各地に設置し、パソコンや携帯電話、スマートフォンなどのモバイル機器などで、誰でもが無料で情報が得られるサービスを始めています。今年は県内13カ所に機器を設置し、県医師会のホームページよりリンクという形で情報提供を

行う予定です。また、従来のダーラム法という方法と比較し、正確性の確認を並行して行っています。飛散数は違いがありますが、飛散の状況は正確に反映しているようです。

一昨年、鼻アレルギー診療ガイドラインが改訂されました。点鼻薬の位置付け、軽症期の選択できる薬剤の増加、抗ヒスタミン薬とプロソドエフェドリンとの配合剤、舌下免疫療法について、眠気に対して留意する記載、治療における疑問点に対するQ&Aなどが新しくなっています。また、久しぶりに新しく3種類の抗ヒスタミン剤が保険適応になりました。何れも1日1回服用のアドヒアランスが得られやすい薬剤と思われます。

花粉の飛散開始は1月からの積算温度がある温度に達すると開花し、飛散が開始されます。このため、1月と2月の気温が低ければ開花は遅れ、気温が高ければ開花は早まります。そして本格飛散が始まってからの飛散量は降水、風速及び風向といったその時期の気象条件によって大きく変化します。適切な対応や治療法の選択には迅速で正確な情報が必要とされると思われます。少しでも皆様に貢献できるように調査および情報発信を行っていこうと思っています。